

まちを元気にする提案と実行力が問われています

いっしょに力合わせ 活気ある釧路市を

道政や道議会の担い手が、いまのままでは、市民の暮らしはよくなりません。今度ばかりは、これまでと違う政治の流れに、釧路の未来を託してください。



①日本に残された唯一の炭鉱を守る

日本の石炭使用量は1.8億トン、安定輸入のため産炭国高度化事業をさらに延長させ、国に国内炭鉱の見直しを迫ります。

②水産と農林業こそ、地元雇用再生の切り札

従事している人の大半は高齢者、このままではジリ貧です。一番の課題は後継者不足。後継者や新規就業者が農漁業にいたら、月15万円の就業奨励金を3年間支給します。

③新設医学部の臨床研修施設誘致で医師不足の解決

地元からも進学できるよう給付型の奨学金制度をつくることと一体に、積極的な誘致に取り組みます。

④地元の仕事と雇用をつくる

特養150床、中心街に道営住宅、学校の耐震化をすすめます。住宅リフォーム助成制度や新たな公的就労制度をつくりまします。

⑤赤ちゃんからお年寄りまで安心して暮らせるまちに

国保料の1万円引き下げ、介護保険料・利用料を軽減、子どもの医療費助成を小学生の通院にも拡大します。

確かな実績は
道議会でも
すぐに働ける

あかし
証

市議会
では

市民の憩いの場である春採湖の浄化も、松永さんの質問がきっかけで進んだものです。中心街への公住建設や水産加工振興センターの充実による基幹産業のたて直し、小規模事業者登録による中心業者の仕事づくりなど、松永さんの提案は不況で苦しむ人々の確かな支えとなっています。



この3年間
でも



市議のときから一貫して取り組んできた炭鉱存続問題、国に何度も足を運んで、研修の存続と研修国の拡大を訴えてきました。漁協・農協、森林組合などとも精力的に懇談、廃止問題で揺れる地域職業訓練センターにも出かけ、知事に直接地域住民の要求を届けました。

建設的提案で
政治を動かす

力

はためかれずみ



日本共産党

市議25年、頼れる即戦力

松永としお

党釧路地区政策委員長

松永さんが、啄木大好き人間であることを知ったのは、前回の道議選に立候補された時でした。啄木のように新しい日本を夢見て頑張ってもらいたいです。自分が正しいと思ったことは堂々と発言する議員になってほしい。多分、啄木も遠い世界から「頑張れ松永！」と応援していることでしょう。啄木ができなかった明るい社会を作るために頑張ってください。

北畠 立朴

啄木研究家(釧路市文化奨励賞受賞)

●1948(昭和23)年 白糠町生まれ●1967(昭和42)年／釧路新聞社に入社、編集局報道部など勤務、同労組書記長●1981(昭和56)年 釧路市議初当選、以来6期連続当選●2007(平成19)年／道議選、2008(平成20)年／市長選立候補 ●愛読書は石川啄木と藤沢周平、趣味は魚釣りと映画鑑賞●家族は妻と二男

ほっかい新報

2010年10月号号外

1965年8月10日第三郵便物認可 発行:ほっかい新報社
日本共産党釧路地区委員会は、松永としお氏の経歴と道政の政策を発表しました。